

第1回 アスリート・観客にやさしい道の検討会 議事概要

- ・尾縣委員：気温だけでなく WBGT のように気温、輻射熱、湿気を考慮したものを考える必要がある。ミストを使っても場合によっては湿気があがりマイナスになる。道路の色や道路の形状（かまぼこ状の道）、道路の硬さ、滑りやすさにも気をつけていただきたい。また、雷雨情報や集中豪雨へのリスク対策も考慮していただきたい。
- ・瀬古委員：日本ほど丁寧に道路を作っている国はない。しかし、真夏の日本でのマラソンは場合によっては命にかかわるので路面を冷やすことを考えてほしい。打ち水が一番効果的だと思うが、中途半端な打ち水はかえって蒸し暑くなるなど邪魔になることもあるので、やるなら徹底的にやってほしい。選手も大変だが観客も大変である。観客席や屋根を造る配慮もほしい。
- ・花岡委員：パラリンピックはオリンピックほど暑くないのが通例であるが、湿度は選手に非常にこたえると思う。車いすとなるとミストや打ち水は滑ったり、ハンドリング部分が濡れると滑る危険性もあることを留意してほしい。
- ・平田委員：日本のマラソン界は冬に慣れているので、今回の真夏のマラソンをやろうえでも湿度や温度表示がなされるといった情報提供が大事になる。今年の夏の実証実験は大変うれしく思うし、効果があることが分かれば継続的に効果検証をして技術を世界に輸出したり、観光地に道路技術を伝承するような仕掛けを作っていただきたい。
- ・廣瀬委員：ICT について総務省と協力して、テクノロジーサービスの向上を目指して、デジタルサイネージを路上に設置したいと考えている。今の基準だと難しいが、ぜひ新しいテクノロジーを路上でも展開していきたい。また、スマートフォンアプリなどを開発して路上のサイネージと連動させることも考えている。

- ・結城委員：観客視線で見れば、一番リスクが大きいのは高齢者や暑さに慣れていない海外の方々といえる。緑化や疲れた時に座れる場所があることが重要と考えられる。また、情報が非常に重要になってくる。たとえば路面温度の情報などが提示されたり、選手がいつ頃ここを通るかがわかれば滞在時間が短く疲れも減る。自分の疲れをコントロールすることと、路面技術を組み合わせですこしやすくする環境を整えていただきたい。
- ・横溝委員：東京都での設定事例では保水性・遮熱性舗装は時間がたつと機能低下してしまう。いつから舗装を行いどこまで効果を保てるか、整備延長をどのようなスケジュールで実施するかを検討が必要である。必要に応じて舗装の打ちかえの期間についての特別ルールの設定が必要ではないか。また、できる限り樹形を大きくして木陰を作ったり、オープンカフェを設置できればと思う。ただし、オリンピック時にいきなりやることは難しい。オープンカフェやデジタルサイネージなど警察当局と相談して設置できると、観客やアスリートにもいい環境を作れるのではないか。
- ・屋井座長：緑陰の道を作っていく環境づくりでは、緑を増やすことはもちろん、合意形成が必要である。また、やさしい道ということで歩道上を歩行者が安心して歩けるように、自転車が車道を安全に走行できるような空間を一気に作っていただきたい。